

記者発表説明資料2025.12.24

自治体連携プラットフォーム構築事業について

－地域共創社会の実現に向けて－

四万十市
阿蘇市
八代市
(一社) SCBラボ
崇城大学IoT・AIセンター

地域社会の現状

- 首都圏への一極集中、人口減による人手不足や財政難等に起因した地域社会の疲弊（2040年問題）
- 失われた30年による地域社会の疲弊
- 地域共創社会の実現が急務（自助・公助から共助へ）

地域共創社会とは？

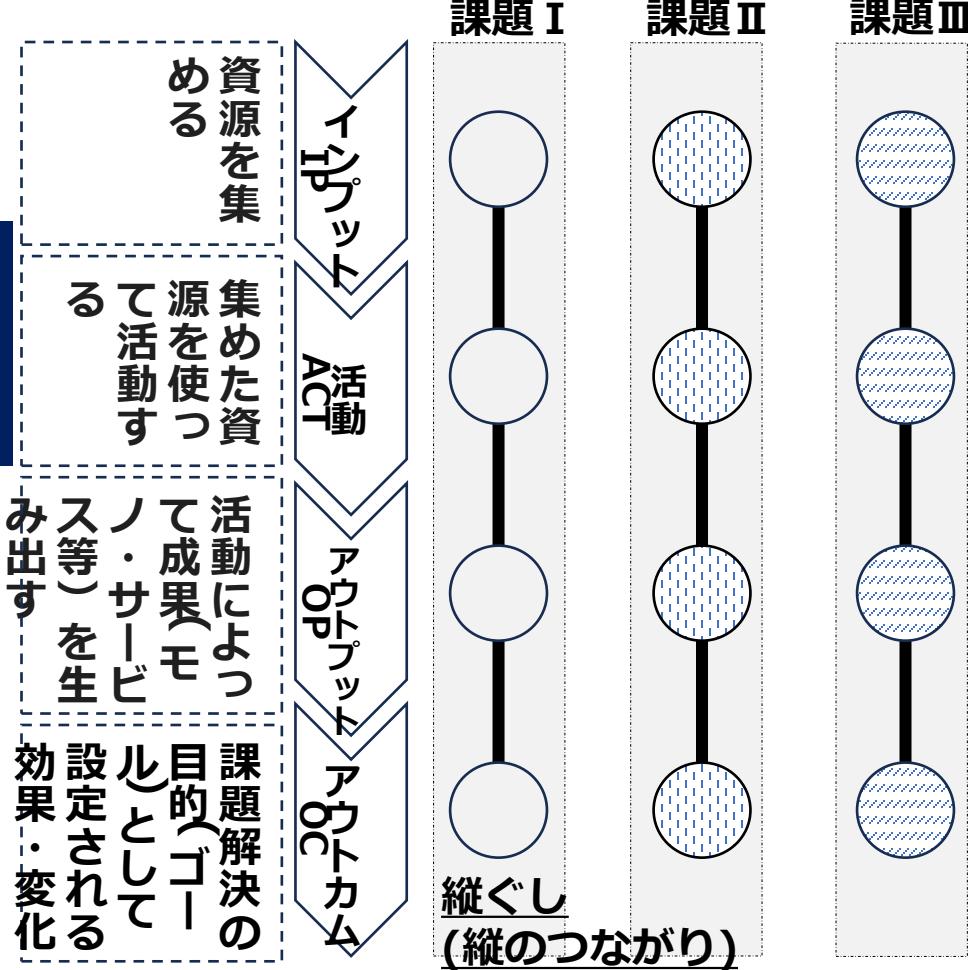
行政だけでは対応しきれない複雑な社会課題に対し、企業・教育機関・金融機関・住民・NPOなどが連携・協働して、地域の**課題解決**と**新たな価値創造**
(イノベーション)に取り組むことを目指す社会

課題解決とイノベーション



地域課題の解決（ロジックモデル）

- ・課題解決
- ・縦のつながり
- ・同質性の高いつながり
- ・つよいつながり



新たな価値の創発（フレームワーク）

課題 I 課題 II 課題 III

課題 I 課題 II 課題 III

課題 I 課題 II 課題 III

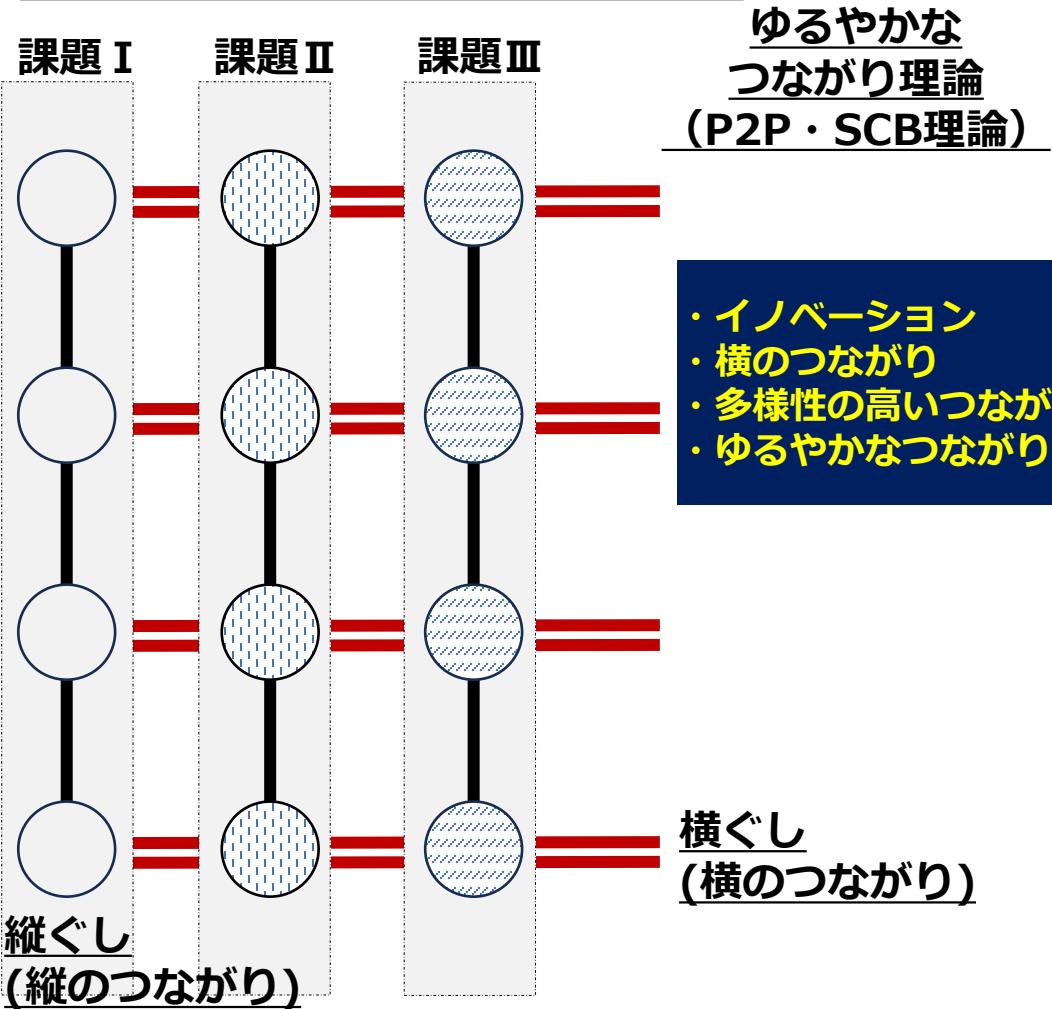
ゆるやかな
つながり理論
(P2P・SCB理論)

- ・イノベーション
- ・横のつながり
- ・多様性の高いつながり
- ・ゆるやかなつながり

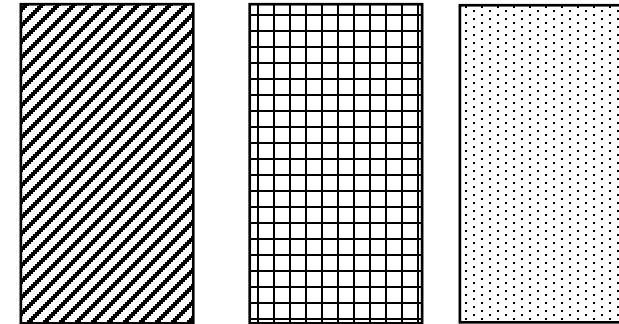
横ぐし
(横のつながり)

プラットフォーム化の効果

新たな価値の創発（フレームワーク）



課題解決の活動

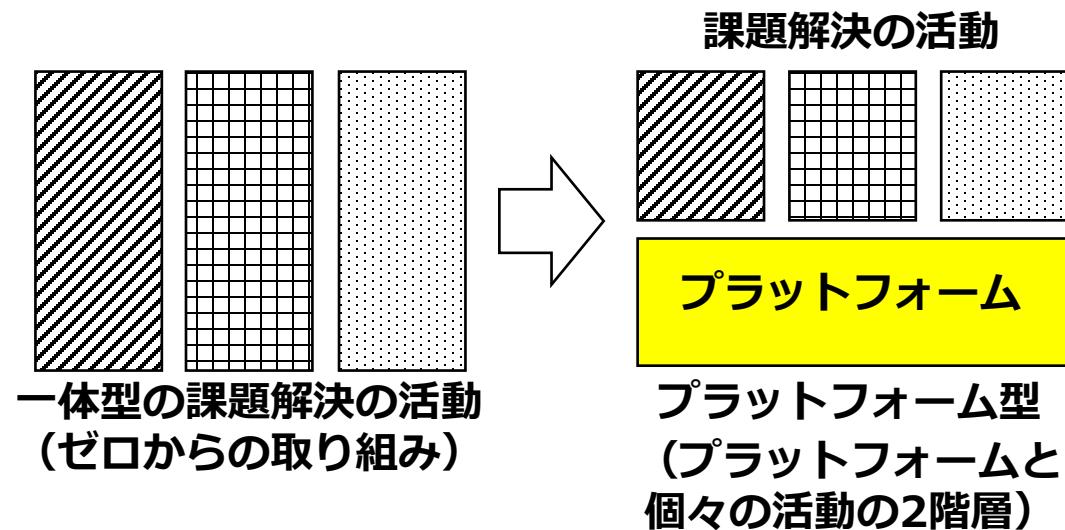
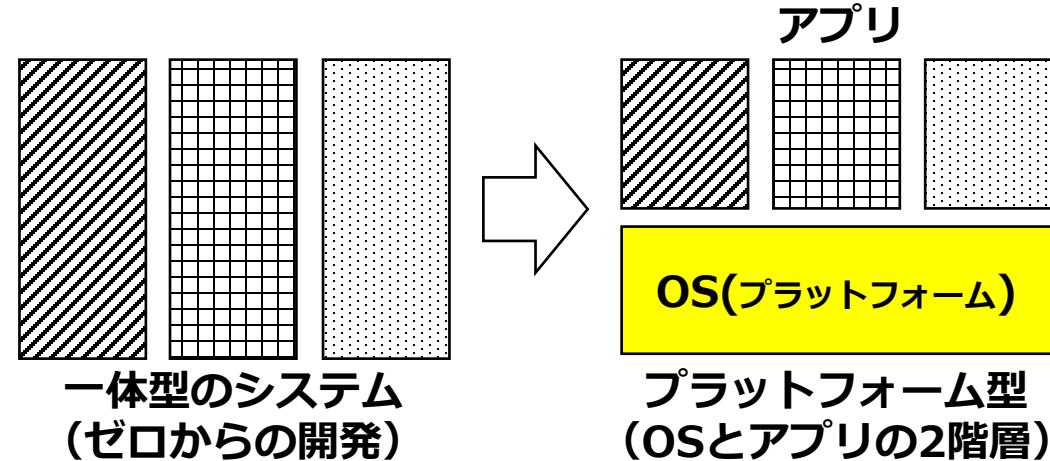


プラットフォーム

プラットフォーム型
(プラットフォームと
個々の活動の2階層)

- 課題解決の低コスト化・効率化
- 活動同士の連携の促進
- 新たな価値創発（イノベーション）
- 活動の可視化

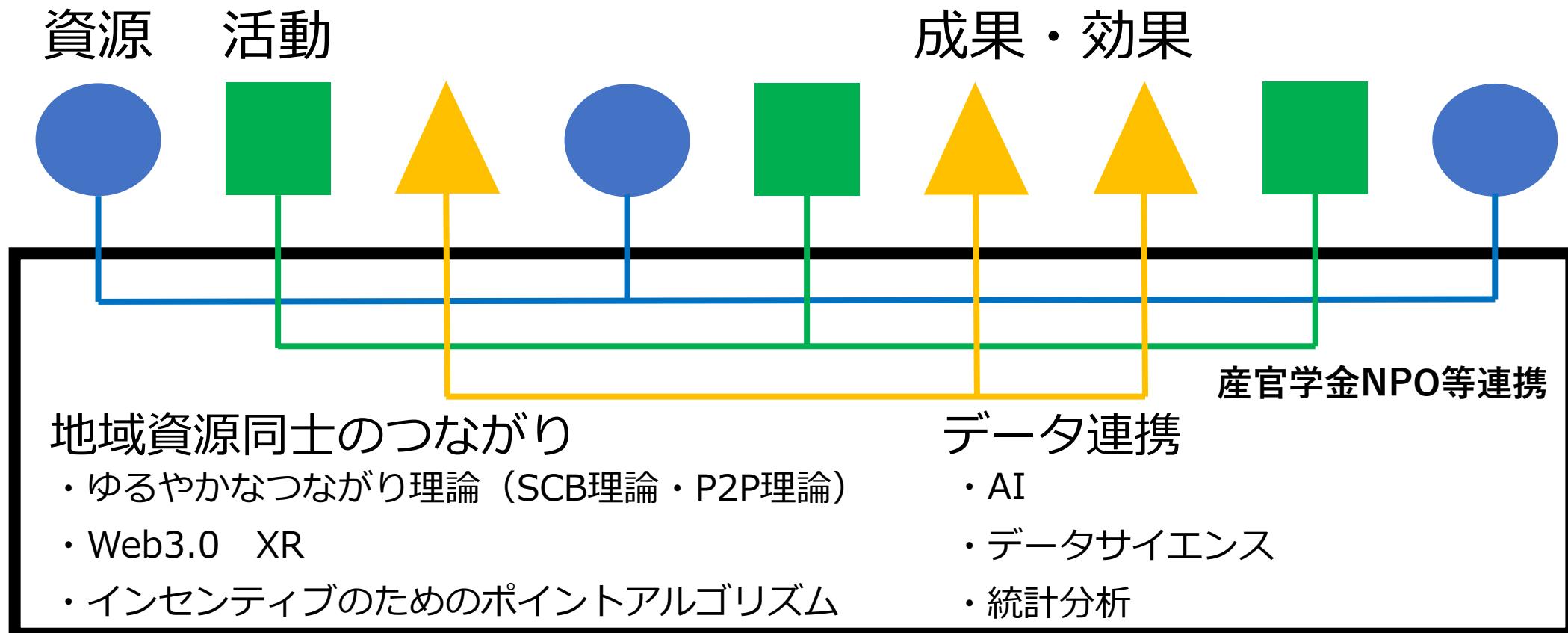
プラットフォームの重要性



- システム開発の低コスト化（期間短縮、開発要員削減、開発費用削減）
- OSを介してアプリケーション同士が容易に連動・連携
- 課題解決の低コスト化（期間短縮、人員削減、費用削減）
- プラットフォームを介して活動同士が容易に連動・連携

自治体連携プラットフォームの構成

- 地域課題の効果的な解決
- 新たな価値の創発（イノベーション）



3市が中核自治体として

- 3市が中核自治体としてプラットフォームを構築
- 3市による合同記者会見 (2025.12.24 16:30～ 阿蘇市役所)

課題解決

新たな社会的価値創発



四万十市



阿蘇市



八代市

熊本市, 人吉市, 甲佐町, 湯前町, 山鹿市, 静岡県松崎町, 長野県飯山市
長崎県西海市, 神奈川県真鶴町, 福井県高浜市 など

30自治体による自治体連携プラットフォーム

推進体制

自治体連携プラットフォーム協議会 (自治体連携プラットフォーム・ゆるやかな学びの場)

会長：山下市長
顧問：松嶋市長
顧問：小野市長

プロジェクト マネージメント

正：星合隆成(崇城大)
副：内村安里(株スカイディスク)
副：早田啓考(株式会社F)
副：忽那有記(九州ソフトス社)
副：筒口 拳 (崇城大)

事務局

株式会社 フォーバル

自治体連携推進部会 産官学金NPO等連携

正：中 洋介(四万十市)
副：田中邦典(四万十市)
副：坂田知彰(阿蘇市)
副：小林和也(八代市)

システム開発部会

正：富山孝治(システムフォレスト社)
副：早田啓考(株式会社F)
副：永木賢士(株ワイズビスパーク)

イノベーション・DX人材育成部会

正：渋谷勝也(NTT西日本)
副：内藤 豊(SCBラボ)

SCB理論推進部会

正：星合隆成(崇城大)
副：忽那有記(九州ソフトス社)

実施計画（線表）

